目録中

源氏目案第三

一よのあしきも　門の内の事ハ行事も表代
まで就すゆゑし　一ふぶうく　何ヨリ始リ　金持
一ふぶうく　緑者　撰二法ニ一ふぶうくハ　不幸ハ
不善　あしくせどしふぶうく

一ふぶうくにぐよ　ふぶうくまでもふぶうくにぐよ
ふぶうくふぶうくの事よ
いろいろふぶうくすいてふぶうく　道の事ふぶうくふぶうくふぶうくふぶうく
一ふぶうくふぶうくふぶうく

一ふるくゆえつづき　石屋ハ家に似る
そのはし　みなづと　ほそにくるとし　おれ
一ふるひ　ふるなり　延一ふるすぐ　傍し　編こん
のりいもいり　一ふつねのいれこずまひ
ぶいるぶき　ぶいるぶき　ぶいるぶきてのるぶにるぶにるぶき
一ふるぶぬ　不見て　一ふるふり　ふんふり
ふむ　術ふん　一ふをそひふるぬふる
人ふもあるぬ人ぬやふし　一ふれたひして　継母
継ふれぬふられぬ　一ふるぶ　ゆぶふる　ふるぶ
一ふるぶり　蘇生　又法　ふりてて　ふれ
ふぶてふふいふふ　ふふてふふふ
ちぶぶふふれふめ　一ふらひの猫もゆけ
ふ　源氏十ふ多ハ　ふ世ふ
一ふぶふぬおつふぬ　一ふべふのふれ
ふふ　ふんべふふふ　ふふふふふ
一ふぶふり　過ふ　一ふつねのふれ　繼
ふん

ふれば　ふ
一ふいふる　ふふれふ　一ふふふふふふふ
ふふふ　ふふふ　ふふふふふ
とふぶ　一ふるはの　ふものふ
ゆふふ　ふふふ　ふのふをふふふふ
一ふふふ　ふぶ　ふふふふふ
一ふふふ　ふふ　ふふ　ふふ
一ふふ　相童帝　ふを　ふ
ゆぶふふ　一ふのふぶ　ふふ
ふふ　恐の　ふ　ふ　ふの　ふ
ふをぶふ　恵心僧都ヲ別ス　横川僧都ト
一ふふふぬ　ふふ　ふふふふ　源氏ハ遠
のふ　ふ　ふ　ふ　ハ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
用ふふふ　ふふれ　ふふふふ
一ふふふ　ふ　ふ　ふ　弄　源ノ作

[illegible]
[illegible]
[illegible]
史記曰尚有往事之孫熙車前後
各十二乘楚主臣階侯蛾病愈
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の[illegible]同じ事[illegible]野老をこらしめ
[illegible]同じ蓮の事とゐなのくとのくし
一[illegible]とろ[illegible]を信ずるハ小四
[illegible]不顕説げんりや
一[illegible]のうちの[illegible]をよりてゆく
あけて　廿三の[illegible]夜[illegible]不[illegible]性臺[illegible]
悪鬼[illegible]のあり三大印[illegible]
[illegible]用[illegible]しのくびを四方
[illegible]
一[illegible]約　[illegible]水晴[illegible]知夜[illegible]
[illegible]
[illegible]

一[illegible]ゆく まるうしい方士し 公休ざが
名し玉のありくくに更衣の墓のさを引
一大浪の芙蓉未央称 見長恨歌 大浪ハ
池の名し芙蓉ハ蓮の色し未央ハ宮の名
蓮花称ハ楊貴妃をさくくら
一大家多の初りの 梵書中ハ大家多常として
有札を二くく 伊膳すの也是ハ帝に
まゐる供ぜし初りのハ口宿をもや
一たいくさき 遠方義 一たいよりくく 不澤
一たい人くぶうくくよりもし 楊改開白も
音のけとりハ共人とのの[illegible] 親王の
多根より国のりと二くぐ 便
一たくくぬぐき 繼し[illegible]ハ懶し
一大すうくてはぶ人のあぐじ[illegible]ぐき
いくくくり 一[illegible]
女のあるぐぐに深[illegible]

一[illegible]のくくもくくあ[illegible]
一たのあくる 形し 一くくぐれ 宿便
一たくくく

一大納言殿　第五番ノ一ツ　[illegible]
[illegible]
[illegible]
一[illegible]
一大殿の[illegible]　[illegible]
[illegible]
琴・瑟・五堂　今宴敷ハ必要下ヲ[illegible]
[illegible]　[illegible]五年五月共五日[illegible]競
馬六番ノ時。手上自[illegible]　[illegible]大敷結ル時
置堂上也　一大くん所　[illegible]
女房達のあるを　一[illegible]
一[illegible]　先第一ノ儒若奉
御獻題次書[illegible]　[illegible]
庭中文臺上　近衛次将先探[illegible]
韻二字置　[illegible]蓋[illegible]自[illegible]
獻之次王卿　堪[illegible]文者文人者

各進文臺頭探一字見之
[illegible]性名及[illegible]探字也　今宴探韻ハ
名一字詩也　[illegible]韻字[illegible]故懐
紙ノ端作云ク春日同賦春夜歓
探花名分一字　[illegible]製詩　[illegible]
可書也　一大殿の君　大将ハ
[illegible]
[illegible]
一大殿の[illegible]
内一人[illegible]　大殿の[illegible]
[illegible]上の[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]及菓[illegible]　[illegible]時　恭敬與　提婆[illegible]
一[illegible]

弄天迴雲盤雲將雲唯足而行用不
遷昔　一たけのある坂　土樂
三尚新草堂石階　杉柱竹編墻　白氏文集
一たぐのぐぐ　彈碁　後漢書梁冀
能彈碁　智力
一たぐぐぐ

河逆ノ事ヲ花ノ宴ニ中納言
[illegible]ノ有。下ニ[illegible]
[illegible]ノ事ヲ[illegible]弄 畢竟[illegible]
一仏[illegible]トリ物也 物忌
一御殿 [illegible]ノ観十八
年二月廿五日、[illegible]院ノ大学寮ノ[illegible]
[illegible]ノ御願ノ[illegible]ノ祥
[illegible]ノ人ノ[illegible]ハ玉手袍ト玉
[illegible]ノ[illegible]
一大[illegible] 西三条大臣良相ノ公卿院
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
大学ノ[illegible]ノ[illegible]
四大臣[illegible]ノ[illegible]
十月廿七日 内宴。同十二月廿七日 暗ク例
[illegible]
一辰ノ日ノ[illegible]
[illegible] 十月廿八日[illegible]
[illegible]ノ日[illegible]始[illegible]ハ廿
[illegible]ノ廿也。仍上[illegible]

廿日ハ帝[illegible]紙[illegible]寅ノ日ハ五節ノ[illegible]
卯ノ日ハ童女ノ[illegible]辰ノ日ハ五[illegible]ノ[illegible]
節ノ舞ノ日也。辰ノ日ノ[illegible]ノ[illegible]
事不[illegible]。[illegible]節舞ハ内中ノ辰ノ日
[illegible]ハ五節ノ[illegible]
[illegible]
一大学ノ[illegible]ノ日 進士試日。可進[illegible]
爵禄者也。聖武天皇神亀年。始進士
試。帝王系口 進士及第例 略之 弄一勢
[illegible]
[illegible]
一大[illegible] 河大寮ノ[illegible]
大学 小学 大監二人 小監二人 大典 大小令史
時ハ[illegible]。小学 [illegible]
爵ノ[illegible]。大史 監[illegible]。大監ハ正六位下。

小監ハ従六位　兄大監ハ正六位下相当
従五位下ヨリ叙シ始メバ兄
の監と稱すべし　一たしかに大和者
一たゆゝく墮落　史記をちぶれとるけ
さき　要略記　一たのもしけるとハ
きぬよ　本根よ　ものすくなくてこゝ
ろ用ひなく
一たゝうらなん
六月　射手　射手の
唐人のおそれをなして
でむると　打毬　打毬の
競馬の日　雅楽寮　競馬
の乳酪ハ必ス競馬
一たゝうらなん
倒し　一たてまつり

一たゝうらなん　今ハ
あてあるよ　一たゝぬとしひき殺
一たゝん　ばくよ　ばくよ
多よまきんと　一太上天皇に
漢ち組の文　たゝと
日本よ
中文の大饗　饗
正月二日　二宮大饗　要略記ニ云ク
大祓言　白大神　中祓ニ同色
参議大神一紙　水色濃　黒色
小神　黒色　細も一連　略ク
一たゝうらなん　絵巻　海山十リ

一たらして胸 又烏一こけらひろ〳〵
おちけも回抜ちて了ぬ人ち
一これうく ふハ仏ちの杖の杖をつち
るを源氏ハさしのぞかせんをとりてみも
何ぞ人いるかと一たらしのあそん
しりつぎの方と清捕の袋をまゝ早り
よゝかとありぐたらしの方ぬぎて亞
一たぐ〳〵 大曲し 一たそいて 人義
たいぐ〳〵さまされバ物事の沼めらぐ其
幼よ生ちたちのてきゝんとうりそれと
紐ちぐ〳〵よりを一たちうか 第し
一たちぐうちんぐん 搖豆事 搖三彩及菓り
荒 隨時 茶敬与 彩とぬとを行て
義人の候りて義 日声明ぬぐてもり有
たちぐうち 採菓 汲水 拾彩 設食ち
干飯 寿事 經於ち 成ち 顕ちの 必者

しりぬぐ〳〵久さて新とぬ方ぬぐぬて
ハのちれ彩とち一たちあぐ〳〵ぬ
ぐちぬ〳〵けうり よハ仏へ滅ち
常 在 灵鷲山のくちあり彩 秘
生ち見 諸仏 号て 恒中 法映 典
もちるぬとハ別てぐてうり地
一ぬしのれ 法の 襄 ちのにぬ
一竹川の竹川の曲をうしりぬを
ちうち竹川のうぐ〳〵ひの行事ぬ
せめぐ〳〵ちくて〳〵あるゆへうあり
一竹川よ 竹川ぬ一 ゆ ゆ〳〵とぬ
めるぐ〳〵ぬうるふ ぐまうま
うんと早ぐりや 一たちうん 義
あ〳〵ぬ方とのぬん とのぬ〳〵
一ぬり 多とうち 墨 神祇 今 水桶
狩 修 柱 ちち 一張のぐり 晨鶏

并嗚呼猿月渡・征馬連嘶 行人出塞

一ゆうのくい 昔は禁中までも参殿ありて
今は禁中まで也 参殿は宮ノ主殿南
階よりぐりて出入 礼ありて稱讃の作
法也 新大納言の縫殿よりの給はる 白れ直衣下ぐさねめづらしき
一大臣ぐりやれ 大臣ぐりくと云詞
ぐりは辷り 一大内記書家軍
一たけのこふ ろてよまりまるる 高
でさくさる白し 一たけやもくもふ
梵天帝釈は人をつくさる天也
帝ノ天は切利天金輪 一ちりる也 橘質ふ
あるふんてさ 帝ノ天ノ宮殿 一橘ぬ
のぶ洞よりの也 一橘ぬ
ゆしゆんのうりうぬいさて 情よ
変生あれし

はるかのぐくさて 承とぐ
はのりれ新さ 一たけめぐさ
づさかさけさり よは佛へ城
常在霊鷲山のくあり 新紙
生て見諸仏 恒中法映典
むちるさくい別てぐてりし也
一むしの也 源の義 ふうにゆんも
一竹川の竹川の曲をうしひる
とうし竹川のうくひの詞
せめぐしくてあるゆくあり
一竹川よ 竹夜曲 ゆのしとぐ
めるぐいるうり とぐまりうま
乞と早ぐりや 一たちうん 蓋
あいさとこのりし
あけさり 条とうる墓 神祇令 水楠
紙綜杜 一孫のやどり 晨鶏

并唱歌月燈・征馬連嘶行人出塞集

一清うのくい 昔い徒くすてあがくを

今ハ禁中までも喪葬ハ京上王天南

階よりてゆうて礼ゆるんを 稱讃の作

法也 新大納言の縁ゆえ 昔ハ束帯

自ハ直衣トゲ さねめづ〜 さる

一大まうりやれ 大まうりと云詞

一大内記書ゆ 一大内記書ゆ

ゆい 絵 し

一たけ山のふ ろ

でさ さ 見

梵天帝釈ハ人ゑとつ さ ろ 天し

帝ハ天ハ忉利天全一 ちらゑ 橋ゆ

わらハんて て さ 書 ゆ 道 ち

のぶ泪よりの也 一 絵ぬ さ ろ の

ゆ さ ゆ ハ ゆ ろ ぬ ハ て 垣 よ

ゆ さ ハ ゆ し

一たけ ち ち ち く

絵のゑ ゆ と 和 て ハ て ハ て

一玉よ さ す 珠 毛詩 ち ち て 觀 よ

中 と 断 絶 ち ゑ 珠 と ち ゆ し

一たまの 瓔 反 見 葬 礼 記 式 瓔 人 稽

ゑ ゑ 人 と 画 て し 瓔 ゑ て 養 生

ゑ ま ゑ ゆ ち 絵 の ゑ と 勅 の み ま

あひ ち て 珠 と の の ひ ゑ ゆ ハ て べ ま

一たまの 竹 ゑ ゑ ち 云 に わ ゑ ゆ ち ゆ べ

一れ

一まつ

一れ ゆ て 源氏の ゆ と 一まいの ま ゑ

ゑ て ん ゑ ゑ ん 也 ま ゑ て 例 ゑ う

一まいふ ゑ ぐ ゑ ち 月 日 星 の ひ う 金 曰

陰陽 寮 ハ 人 掌 ニ 天 文 曆 数 風 雲

氣 色 謂 天 文 者 日 月 五 星 并 八 宿 也

曆 数 者 計 日 月 之 度 数 而 造 曆 授

時 也 氣 色 者 風 雲 之 氣 也 也 言 ハ

土雲ゝ色視其吉凶候十二風気知
其妖祥 安和二年七月廿日黒雲
廣三尺計起坤亘艮 康和二年肖
五日白雲廣三尺許經天亘東西
一わらうけまんらく 審試 乾元試
ゝる史記とゝ
ゝらんと擬文章生補す次の日ゝ
蜜ゝてんゝゝゝ及第の人ゝ文章博
第生ゝ補す是ゝ進士ゝ
帯ゝて勅ゝとゝ
文章ゝゝ補してのち
宣旨ゝ
畧ゝ
一連いのゝんでん
れど何ゝ
一連いのゝ
一連いのゝ

一連いのゝ毎月八日中堂ゝ

一ゝ精
一ゝの人
一ゝ悪形
一ゝ撫仙宛
一ゝ撫東 えび張のあく
一ゝ足下花
一ゝ抱
一ゝの三のぐやづれと中のゝて三の
一ゝ保昇
一ゝ側
一ゝ縦ゝ撫ゝ
一ゝの
一ゝ
一ゝ

一そうづくりの御所たちくらし
一そうのれば こうれん 一そうしきめる 屋よ
めるとき しゃとそもくる間
一そうづめ くりめ その人とおられも
そめ人とおり 一ゆかりの声聞
八月十六夜 一そよ それよりの意
一そや 初めあり 一そうづき 琴し
源氏はじめ 一そうや きとの意
源のはじめ 一初めて きしき初
もとめきめ きめ そもとあ もも
一りそうきの めうそ そうさうそうし
一初めて そそ夜と 初めめて 寺の
ゆうとそよ おうう きのや
一そうそうきもで 一そのたのハ 詩と作
ぐうよのて
ぐき 備者の道著

とらうぐ もし 寺からづれ とろそうう
一そ きうめの きりの ゆしよりを
初うも つくめり 新うぐむ
るも めく ほりう
一初ぐらで たうう 手鞠の
時の 初めの
うう ようう ずと
そそ ずれの ようり 所の
とも とも 今の
時の儀式の ささい 大勢
一そ めて 元 ぐあり
いよ つきう 初とい とちと
ゆるも ゆき くし きく ぐそう て
帝よ りう ゆよ 長 勢と た
しく
うう くん 建歌 一初の上の もれぐ
一そ れき さる 此

[illegible]

一そのくにの人をして貢を献ぜしめ給ふ中金貢二人浪花真人公を求貢せしめ給ふあれば公命を奉じ

[illegible]

諸衛・六衛のけけいとは云ふ名衆

河内国 今曰主殿寮正五人堂上間ノ習

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一そこそころろとふるく　そこの夏のこと
一そこはずの雨の降ること　一それはいとくるしく　夏
大納言四三位任陸奥出羽按察使一第
徳右近衛大将　家名行ト　儼忠　第手
六年七月十四日薨ス　四十七　号八條
大将　時平ノ子　本朝　鳳雛生ノ元祖
保忠は初位より代々　それそれとかさね
をきて　おのゝ　そこ　つるのこと　書ぶを
ところ　第にそりつきてはべりけむこそ
一そこ　とあゆむ　やちこく　栄花物語ニ云
院の御の御葬送の夜　第ぬきて
院あまつ　ぬ　つ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
て　源氏もはり　堂　一　そ　八　の　夏
始て　手　子　幼　の　ぬ　ま　り　あ
ひそり
一ぞくしぶり　東地
山谷　ぞ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　の　倒　乃

伝　ぞ　詩　ま　伝　り　一　そ　て　ぬ　ぬ　中　ま
大　ま　よ　ぬ　て　形　ん　ぬ　ま　ん　と　ま　み　ま　ま　根　ど
め　ま　い　根　ま　ま　し　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　根
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ぬ　ま　ま　者　ま　れ　ば　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
一　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
一　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
楚王臺上の琴の声　班女ハ後宮の
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
白扇とある　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
一　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
可怜　雀半　夜

鶏人 薄媚 狂鶏 三更 唱暁 狂伝

一そでふれ　昔の人はかしこかりけるなり

やまがつの匂ひ　坐すごろく　仏も同じ

一そう　孫　むづかしき　監ごろく

一そして　なして　又　殺して　依ず

慈教笑窮と詩す　仏り　大撥教の事

一そそくそくそく

[illegible]

一つ　秋除目　若・号縣・名・稱・者・太政官・秋・者・外記庭・仰・之仍称・爰石・数陸・表八月也・さいあぐる

一つ　秋八つ・[illegible]・[illegible]・[illegible]

一ついとうにもちあのいはありさまなくれだ
毛源左衛門殿左右よて。第二舎人殿の出仕
まこぐさくさくよもあくまぐろかたこ
一つのぐめあいのりて 敦信の義のは
仰ぐべくは高量するこもくるあ
さていとすべるげこと いつり河放信 試
人変し
一つやもさも 毛 つやをくめのあるまも
一つまくあのやうにく 花たとくい鶯にひ
くくくくくとくくやとしてけぐそのつ
とくとつまぐあくくくく 美女人のドの
るまよ言とさていいこ一つ一やるはもくさ
一つくくくも 鶯とも 一月四くくくくく女の
方一のくるぐ。今日をとるぐくくく
一つぐいもちの 桂の笠は入くく餅こ云
一つくくくくくくれて花 和歌こ。大歌ぐくは

くくあとでくくをくるれてくくいつり
一つやくくぐくし一つくも和 造物和。
内裏仏詞に有 一つくくくくくくくくくも
一つねくくす不書 物語にくくくぐず
いこくぐぐ
一つ 和歌大臣。菅原道真和のくくく
一寄 志ぐくく 菅の山和のくい。世代者な
笛の音とくくくくくくくくくくくくくくく
物語よくくくあくくくくくくくくくくくく
文のまくを比する。八重山 物語 ひくれ
作り。文選 長笛賦云 蟋蟀 蛾同京
音 猥積 云云 一つぐくくくぐ
嘆咤 虫 乳 一月ぐげ八同ぐ 禁
も北山院の月も同ぐ 新古 院の花
ぐくくくくくと早ぐ 一つくぐくく 星兎
くれ志ノ清涼あくくれ 撥忘ノ河の衣

一つるぐゝ　虫の声ハ蟬しぐゝ人のうゝ
うゝつけふ　一つうゝちゝとつねより
も　六条院絵　礼の　一つくゝあつ　つゞ憑
虫の名ゝ　食　沼　一つのくゝも　史記
季札ゝ　初使　過徐君墓樹而
劒　口弗　敢言　乗　札心知　為使上
国未献　還至徐　徐君已死於墓
乃解其宝劒　繫墓樹而
去　後者曰　徐君已死　尚誰予　乎
季札曰　不然　始我心已許　豈以
死信吾心　年　呉世家
一つてよう　なうしてあと　大きゝ
ふゝゆゝ　一つを　礼幣
一つのうり　埋　一月　いむ　後撰
十六月をうゝ　ゝ　ゝ　ゝ
人のゝ　一つゝの人ゝ　結

笑ゐ　ゝれば　のつゝの人ゝ　ゐ
ゝ　たちねよつゝ　ゝをゝて　祓
一つゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝれば　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
の　ゝ　ゝ　ゝ
ちの　ゝ　ゝ　ゝ
一月　ゝの八日　呉姫の絵ゝ

一ね　二信　三信よりて　伝のつぎ心　常の上篇
の　ゝ　ゝ　ゝ　一ねゝ　ゝ　ゝ
一ねゝげよ　ねゝ　ゝ　ゝ
一ねゝれ　ゝ　ゝ　ゝ
一ねゝび　ゝて　鬼の　ゝ　ゝ
一ねゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝつけ　ゝ　ゝ　ゝ

[illegible]

一ねびの人 年のころ二十四五 [illegible]

面ハ延喜式よりくはしく 垂髮別面し 一勅

今ノ世ニも院・文・関白あるべし 別面の

為にてあり

一[illegible]

一女房のすがたし

一ねびたるすがたし

年三・正廿九月 六番目 天帝人の

月南ノ方ニ 廻りあるべし 九星ニ

一[illegible]日 [illegible]日也 十節ノ記ニ四正月

子日・[illegible]・[illegible]遠望四方ノ持法四静

元涂憂悩之迷 一ねびたる 福寿言

ねびたる之神祈 一[illegible]日[illegible]

[illegible]日也 [illegible]月の[illegible]の日 [illegible]

一ねびたる [illegible]

猶ノ字 音 [illegible]

一女房ともあるやうにありて 河五条二条

后の事平[illegible]に通しのしるべ[illegible]

[illegible]

小[illegible]

一ねらけたる [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

一なりよりと　河原しやりゝ也　却を
なりびの間に紙を　なりびは紙屑字し
一なりゝ　平し　一門伯のすけ　典侍
高侍　掌侍　命婦　ちりさしよ　内侍
しるくと思ひ　一なきくのすゝ　ゆね
出くん　楊貴妃の　出れよあして　くんぎ
武蔵に　ゝせ　ちり　ぶいりんぎ　いぢり
うて　文衣　文金　命婦　はあひ　ぶれ　ぶ　のゆ
一中ゝ　ちりて　ちちん　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
うて　ちり　一なまめりう　宿婦
生　花　なまめゝよ　二のくあり　嬌る
ちち　世間　花の　守のくし　又生の　なを
なまめゝちい　しのなまゝ　ちゝく
ちりちるし　一なずひちちる　忍
一なつちい　れむつちゝし　明近

一なゝ　ちれ　一なりつちりありて
ゝちし　ゆ　ち　橋ちい　清浄　ちり　紫
雲　ちへ　ちゝ　文　帝　ちし　ゆ　ゆ　ち　東　ち　ち　ち
ゆ　ゝ　陽　橋　あり　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
向て　舞　鶴　ゝ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ちあ　ちひり　鶴　ゝ　又やりちゝ
一なりちれ　行やゝ　ちやりの　貴　ちと　人乃
ちゝちめ　足ハ　稲荷　ちゝ　ちと　ゆ人
ちれ　ちゝ　ぶ　ぶ　ぶ

一ゑんのあり方ゑ仏やうやとそんしゑ
ゑんぐーぐーゑ志也一ゑ一ゑ一ゑ一ゑ一ゑ
一ゑまゑゑゑゑく鑽志一ゑ一ゑ一ゑ一ゑ
ゑゑ仏一ゑ人のゑゑゑの仏一我ゑと
ゑゑゑゑ　一ゑゑゑゑゑゑ仏ゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
一ゑゑ神ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑ

[illegible]のこのかみとて一商家のてよ[illegible]
自信[illegible]の[illegible]
[illegible]毛の[illegible]
[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
一[illegible]

[illegible]
表同じくるとこたへ一七のきちかんて
白てるひろうのなくて天武天皇十年正
月七日尚少弐[illegible]やらふとて 此儀
十二月海日除夜よ例と遣すこ是やら
ひとこ遣ノ宮をやらふとこむ也儀の宮
とをるやうに遣こ嫁自第一追讃歌
をたくさん出ぬ若の名あり玉第よ
義花形なる面天ゐ[illegible]
石第ぎの事こ 一四えんゐと四三
月中よ清涼殿よて女人とめ
詩を作り侍ぜこ[illegible]あり主上并
狩衣赤地ノ袍を着す保元信西ア
行事後八絶こ一ゐのほとの十の
法と中よ用て中のとこ[illegible]

七まで四ゐを八九十遣中の船と称
中のゐとそこ[illegible]妙音院の[illegible]
ちとかくすこ大宮中のとこ
三四位秘法こ 一ゐ[illegible]
内侍と中ゐよの中法[illegible]
て常ゐ[illegible]
のこ[illegible]遣一南面の桜のえん
面前ゐ桜ハんこ[illegible]
例多こ南前ハ業[illegible]
[illegible]三 於神泉苑有花宴事
[illegible]南前例 村上康保三三
於南前有管弦事 時拍子例
改長四年二月ゐ例也又名[illegible]
[illegible]術天暦三三十二右て地下
舞人ごりて堂上の舞ハ[illegible]

一なをあ〜ぐよ はまぐ〜ハあ〜じとく
一ゑげきあつひ みのあるを法ひこひず
ハ吉伝ゑ偽まて 法ひたひすこ まいこ
のゑと三友通メ下ぐのつまを結ぶとゑ
一ゑのゑをそ〜 本妻の服も三月く間
ハ更衣〜めぐず みじをもいをくゑまや
くゑりんぐ〜の後添ふまぐき申すり
ひもぐり抜きるとハをもひもの換ふゑ
ひくりてえくゑくるべし 妊服ゑ紅の紐と
用事 定ゑて陽ゑ喪ゑ 宮内省火
紐ノ下襲とゑ〜めまくゑ〜ゑ
一るとゑ月 やまず 花 聞成王の守園ゑ
且 東桃 よへのすとりめり 左為義
一ゑげきてあ〜 ゑのゑ〜んぐ〜ゑ
位ゑ拘ニゑ ゑ月墓の字ゑ本ゑてゑるゑ
ゑ 紐中のゑくゑ 一内大臣よ ゑめ

花大納言数ゑぐ〜まりて ゑよゑめゑん
ゑて 位ゑより内大臣ゑめゑ ゑる
ゑゑ 槍大納ゑ ゑゑく内大臣ゑとゑけ
ゑゑし ゑて まく〜ゑぐく 拾ゑ ゑめ
比ゑ あれば 事ゑげゑ 織ゑいぐ
紐ゑ大臣ゑゑ 玉 数ゑ〜ゑ
て 一部 数ゑ ゑ ゑ 大臣の事也
位ゑ 園 大臣の ゑ 内大臣の 変遷
一ゑれゑゑ ゑ ゑ ゑ 中の
ゑゑゑ ゑ ゑ ゑ ゑ ゑ
ゑ 改大臣ゑて ゑ ゑ ゑ
花代姫 ゑ 八千代 祭ハ 新設ゑ ゑ
典侍の人 ゑ 衣 ゑ て 系 ゑ
解除 ゑ ゑ ゑ ゑ 新設の ゑ
の例ゑ
今の ゑ も 毎月 ゑ ゑ ゑ 年の 風

[illegible]

年賀の礼のすじ、式ハ七日ぐゝよりあり

一ぐゝ　女のあられ器のすづりにひ

めてもし男女のまづりとせどゝ器はよ

ぬゝ、ハ今もちゐしを神のいまあぬ

りんとのんし　一ぐゝ　風俗畫

[illegible]ありたゝ　やうりたゝ　やたゝ式ちう

くてありたゝ　あられのありたゝ　一脚

とゝるをてやとゝるをて二脚　あるま

うんとゝもやみてうるれ　三脚　式ハ大高

[illegible]　乗不詳　やし　切ぐりうゝ

一ぐさゝじと　中の[illegible]の淫おし

一ぐゝ　ぐゝをゆゝられて　ぐゝ

真衣をゆゝられ　[illegible]

[illegible]　乗　[illegible]

ゆゝられて　ハ　詞のうぐりし　ぐゝ

ゆゝられゝ　一段　ぐゝ　ぐゝ

いの中のえんとゝ　一ぐゝ　のあゝ　御[illegible]

文力枝文物　池有　波文　秋尺　開

一ぐでしこのりそゝ　ぐゝ　ぐでこハ　ぬて

紅葉ゝ　番し　けしの　ハ　ぐでゝ

一ぐゝ　ゝもやゝ　ぬ　[illegible]

いひくゝ　ハ　と　一ぐでこのつぐ

のゝこしゝ　ゝ　[illegible]の多ハぐでこの

ゝにゝゝ　ぐる　[illegible]　紅ハ　落前　[illegible]

[illegible]　一ぐゝ　[illegible]

[illegible]　一ぐの月　[illegible]　細

ゝのうちも　[illegible]

[illegible]　ハ　[illegible]

一ものがたり　さてし・長篇のものの・あとの
篇積て小半り・凡そ三十一字等と短歌二百
一四倍のうちの古文づくし　事問なくて・四倍
の度をもうるなり　一四倍不よしとなるは
しかるに　四倍のゆゑは・尚倍・典倍・雷倍
女孺　四等の度をうるなり　寄月よい歌見
四倍のうちの古りしへ　事つどひし
一ものがたり　第いとゆゑとなる歌
一ものがたり　うちうちにいとうるはしく
ものの義也　一ものがたりなるよりや中
よそ〳〵落ちうるまてそどく　おいてし
一ものがたりや　惟光女　ようとく　歌てあつひ
ところをもとこそ　一ものがたり　ものがたりは　ものの
一ものがたり　八雲御　おもうるものといふ
のかとうるに・小井　しいさ〳〵　ものがたりも
ものがたりのあるてものがたり

一ものがたり　ものがたりの　ものがたりに　光
源氏　人のものがたりてものがたりの　ものがたり
そうて　ものがたりのものがたりの　ものがたり
一四　新王　乗　同　女　ものがたりも　新王　宮下
て　号　すること　一勅　合戦
一ものがたり　ものがたり　源処行　ものがたり
御敵　声　常　未　有　廟　庚　勝　時　白玉
ものがたり　ハ　ものがたり　御敵　ハ　ものがたり　和
のつくし・人の　未　不　通る・ものがたり
一ものがたり　ものがたり　原の心　ものがたり
簿つる　ものがたり　ものがたり　ものがたり
ものがたり　ものがたり　ものがたり　ものがたり
ものがたり　ものがたり　一ものがたり　内数し
一ものがたり　杉　編　一ものがたり　ものがたり
ものがたり　ものがたり　ものがたり　ものがたり
ものがたり　ものがたり　ものがたり　ものがたり

[illegible]

一貫の衛 佛奉 [illegible] 行幸 [illegible] 佛奉 [illegible]

第中少納言 [illegible] 佛奉 [illegible]

後王殿 名野酒 [illegible]

脫弓家 着綿食堅 名猖八行啓 [illegible]

一[illegible] [illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

人宮法中やどり [illegible]

曰孝惠帝崩太后哭泣不下 呂氏本記

一[illegible]

一[illegible]

同じく 法行 [illegible] 是生滅法生滅

滅已寂滅為樂 雪山童子 求法

求又創 [illegible] 全身をあらはして法をやて

石くぐは半分のつり [illegible] 鬼は帝尺帝尺は [illegible]

一[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

庭前 灵物降居 樹上 說 [illegible]

詠 詩 [illegible] 作者 [illegible]

請琴琵琶 按 秘手曲 [illegible] 醍 [illegible]

按上之在上 [illegible]

縣召式 式は [illegible]

一[illegible]

と [illegible] 行し 式は [illegible]

もと [illegible] 後 [illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

一[illegible]

紅葉うりてよびうるよみ人しらずあり

一ひけうふ　三十ケ日の狐よ解りし

一中よつて　大底四時心無苦餘中に

勝新　足紙天白氏文集一ようよりよりよ

うわよ　拙作覚よ女のとらときてうし

一ようしてう　作品　持ち面霧　俗信作なばとり

一ようふりとれうんに　法花経に　作く移作移紙

○源氏目録　ようやくに

一らうげいとうきやうみんしあること

やけくとうこと　一らうこう　弱しりうこう

一らうぐつさ　一らうめく　扇ちく

一らのつくし　羅表紙　一らうじく　うきし

知ようとよりてうこと　心よりうきて　寒ゆり

一らうとやどめる　繞扇　紫苑　架　交砌

紅葉楠　白氏文集　一らんこう　乱声

らうこうまくるげもとうこうこと

らうのむのらんの　昔し　似名　はじとし

と用ひ　芝蘭　ちゆ　一らうこ　螺鈿　うい

てつけらし　俗よ　美貌　ようこ

一らうつ　菓子　知ようのらうこ　ふちもとうこ　ちうち

一らうやうる　高イ　一らうげ　老れし

一らうしあれずるし　つうとまうこ　有

一らうろう　牢　紙

○む

一むあく　ひのふさらうこ

一むこのうこ　にのずくて　安産

のびく　海をつれて　糸ばし

一むつびむ　むまし　一むりん　親王の外戚

のよもうこ　新宝八一巻　りて　来て

ハうこうく　巻に　あるとばめ　ハ巻

[illegible]

一ひとつもの　[illegible]

一ひとつもの　[illegible]

一ひとつもの　[illegible]

一ひとつもの　[illegible]

一ひとつもの　[illegible]

一ひとつもの　[illegible]

一ひとつもの　[illegible]

一ひとつもの　[illegible]

一ひとつもの　[illegible]

一ひとつもの　[illegible]

一ひとつもの　[illegible]

一ひとつもの　[illegible]

一ひとつもの　[illegible]

一ひとつもの　[illegible]

三條明神ハ[illegible]

一ひとつもの　[illegible]

一ひとつもの　[illegible]

一ひとつもの　[illegible]

一ひとつもの　[illegible]

一ひとつもの　[illegible]

一ひとつもの　[illegible]

一ひとつもの　[illegible]

一ひとつもの　[illegible]

一ひとつもの　[illegible]

一ひとつもの　[illegible]

一ひとつもの　[illegible]

一ひとつもの　[illegible]

一ひとつもの　[illegible]

一ひとつもの　

山ちくさ・絵社すてい・各そくるを
うつし・唯風俗の命じ給まま
東子強河幸して・東越して有・風
俗は別のなしとて・柳のむれたの
ごとくなる・山のしらいとをいとに
ちの方ちくさいとをいとに
の糸は・ゆうちゆ・ゆうちゆ
ちゆれば・ちくてひくちのうちいま
りさまの姿・一ひりんの桜の細枝
繍糸し・桜色は・ゆすく・裏いられ藤
芳也・細ぎは・紅のきぬの・男ある物
花・花ぬりて・ちらくらすりうとさく
ちゆれ・ひくい・ひ・屋・ひま・塔の・ひ・花
ぬ・ひ・屋・して・たの・ふ・の・ふ・の・ふ
を五月ノ時・時の・中・の・の・着・
する・ふ・ふ・ふ

[illegible]は、澤山[illegible]菜豆腐の汁を作り
[illegible]
一むかしのうこんくずは流人の通る
中は[illegible]を絞てなければなり也
一むかし　無[illegible]　一昔のうこん[illegible]
[illegible]も史記曰大約[illegible]下久不居
後漢書曰伝[illegible]多余[illegible]
文選曰木秀於林風必攻之行[illegible]
於衆人必非之[illegible]
中庸曰　[illegible]子中庸[illegible]
山[illegible]有大井川[illegible]
の[illegible]
一[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]白[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
一[illegible]の[illegible]
[illegible]
人の[illegible]
日本[illegible]東夷[illegible]日本紀
[illegible]
一むかし[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

一むかしの例とあり

[illegible]て花[illegible]

二のんき法民いけるたちたるれば

[illegible]れまあるあて法皇[illegible]れ

[illegible]太上天皇の音物を

[illegible]て法皇[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]帝皇[illegible]

一[illegible]

天皇の女[illegible]

[illegible]

一むかしの大[illegible]

[illegible]太上皇[illegible]

[illegible]ば又[illegible]

一[illegible]

四寺[illegible]通[illegible]物[illegible]後[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]天地[illegible]

一むかしの[illegible]

[illegible]

一むかし[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

例ふ。さもしまうく遠一ひ物語ありの
物語よりうげう根の事。独めて琴い
きしとうの者とらつ人きくしまる
やうの事ひ物ゆく人うきとつくり漢武帝
董仲舒李夫人息夫人潘右
一ひう別とうとうとてくだれと。訳
勢至因位昔。人のうきて物ひまりに
緒毎の為よりうされられべその物語
らぬとびよりて。つまあよ行きよのあ
一むうく。は面げのたす。あくとすす
物語ひ和物語よりと
一むいとうとうとうとうと武説云肯深
夜伝皇帝ひうやうの間。金峯山より
久照練行者多く加持しまう。平金の
後。本山ありて。年来の行業と廻向メ
異とあり。紺青鬼とう。帝ニ伝ハレ

なりると。智證大師ひんじよ敬識ひ
くれば。紺青鬼つじうくるまて。其ノ
ぬよりまつ一次のやうよ聞て涙ニう。
そ後ひ本ノ知よ無ひ。
義ニ記ニモ尼うり一ひ一物語のやう
伝ふ物語よりまと

○う

一うへ人　多人し雪ふ害ふふ同大物ふ
中納ふうう人ふ一うふふふふ
毎夜異ぎふふ一ううう一つ蛇
ううふふ。あひふきつぎとて新
清ふる橋也。後ノ人きりめんごうに投と
打清てうふとうとて。花村上ノ時。
寛蟹ふの世ひ。ふ蛇中ふと。ひ物
ぬふふのふふひのひふうぐのふう
うふのふよ。不浄とまきちし伝事

をそりさて山道をのぼりしこのあたりに
こぐこしとそり　一うくつがり　(ガリ)
で、ゑぐつよ　高(ゴウ)とゆをとそしゑ中文まう
のりくをゆかりハ、清澄寺の二ヨるとよの山
高いとろらゆしびのりくをのくくの二ろ
と。上の高とゆ　一山ろり山寺し
けゆ後ゑ山とゆ　(ゴ)　山裡のゆ
ゆよりて文のゆ　(ゴ)　山のゆ
一うろゆくう　河　(ガワ)　(ゴ)議　心りゆ
一うりくうくゆ　(ヒロメタク)　(ケイ)　(ケイ)　(ケイ)　(ケイ)
一ゆをのつくく　林の中ゆて　文一刻ヨリ
ゆを東(ケイ)堂を略て　(ゴ)　(ムル)
ゆを東ゆ世ノ一刻ヨリ宿堂を法
ゆゆを世ノ一刻ヨリ宿堂を法
してゆのくすゆ　ゆくくくゆのゆ
声。世の刻ゆ　ゆゆゆくとゆ　ゆゆ
世寅迄ゆ行こ一うけりくゆ

(セウイン)
(リケヒリ)
第川　すゆ巻こ　一うくくてゆゆゆ
ゆとゆりゆゆ　ゆくくくくくくくゆ
ゆりくとし文しゆゆくていりゆ
ゆゆゆくくとし　一ゆくゆの山門ゆ
ゆゆ　宵平ノ遺(ニ)　(ケイ)　(ケイ)
可(キ)石見(ル)者在(リ)　(ケイ)　(ケイ)
りて、河ゆゆ文ゆ　(モ)　(ト)
若ゆリ字ハゆくゆ　ゆくて叶ゆ
のゆ。ゆハ行ゆくゆ　ゆくゆ
ゆくくりくゆ　(ダン)　(ケイ)　(ケイ)
一うけりて　諸　受強　おゆのゆ
一うくの令ゆ　山令ゆ　(ケイ)　(ケイ)
山裏ゆ河ゆ　ゆ令ゆ　(ケイ)
と上の令ゆ　(ウヘ)　ゆ令ゆ　(ケイ)
書ゆゆくくと　(ケイ)　(ケイ)
くく　山裏ゆの　(ケイ)　(ケイ)

一うちつけやどてうちうちうんし
一うめはるうるにあらぬくはしゑ強
ともうたにうたにうたに一うつりの 宮者の人
一ううづう 海のうるて 河内類 一うつうつふ人のうた
うるともうつうつふとうあの系のの
うたうるともうたに目はうつうかく
うしゑはのの新のやどうとうし
一ううづく 紅紫 をう一うう人 船の人 従人
一うううう うううううう はしゑううう
ともうり 系一うもうれ行て
うううう うううう同一宮うし
一ううつうう 嵐つうう 花はううう
一うぬう 紫 一ううてうううう
一うつううう うう ううどうあう
一うかうう うれうう同

一うつうの 分とうう
うるう 分とうう
蛙のうう一うう 蛙 人うう
俳諧集よりあり 一うつうのうう
ど 蛙のおよう 系のごく 出らうう
初めうう 一うう 優
塞ハ俗のうう 行 中 みよの人う 系
ぶの 声をきて 平六伝
七四方 戦して 伊勢の出世までの
をうけてうう 一うハ山うう
と 遊うてうう おうう 俗うう
遊うう 一ううう
クぶと 源氏の衣と 手ふうう
一うう ぶのめのの 絵しぶ
うくうう
うう 一うつうの
一うう 系
うどん げの 優墨

はあひくきたなさはうちすてらるべき
居だかれば・くさてつらあるべし
一うへくそはまるようハ居らてくらはる
一うちつき　裙・大みそ・裙ハ・衣一の人衣
あつぎ・ものぎのさらあし・さめのよて長着
くそてよ小裙とそろ・すはハ浴衣にうへ
にさらいとめくそ　一うばりてつばけよ　吹嘘
し・のろふとそろ　一うてうらある浴
のろふとさのぐくうてしとりうし
一うろふんちさく　浴のうへうる
ぐらうそれをし　一うちふくこびん
くさあるれさあ　一うへ芸人元祖
芸人ていこいれと・芸人は
宇あうもあうくう考し
一うへあうそ　花ハ中の言葉ハ
あうあくく・ゆるぬのまきあし

一うへん　坂んぐ　一うたあ　うたあ　ものきえん
あべ宮氏原まで　ものべき　まうる
あれてまあ　あくあ・みのべいあ
まぬあうそ　一うれ　ものくあ
人氏あしい　さうあるうれ　きあう
いまぐ　御門　さうあ　ぬさふあ
一うさうへ　のうあ　花　今東・意安
い・時のあ　打袴　のうる・新袴をうる
うさうへ　窠　霰　しまつよ　上の
袴をいきぬ・打袴　いうくうあ氏袴
一うへつ　院　河雲　横法ハ浴和の雛
京　仁明天皇さ　ものあ　ーあ
一うべ　命　うべまくのう
うへ　必　ハ・祝　祝し
一右をのべうの長人　古近亟の長人
中ば　位　位あ　位あるべし　新爵

すべきよ。深潮花は俗にて、絵ものばけ
てれこう　一ゆめ物語にて、ものもの
ふさいつくこうんやうに、宮殿の明月記
云、雨降、鼓地、雷光、張金表こう
一こうこの中のつくりこうより、是は表出
刀つるぎとほ武にこうこへ、弱井の出こうあれと
ありせなりしをあり。一のたのみ、ぶら
てこけつ向し　一こうにほ寸弗の花
仕合四弗に、つくし　猫のみ、の姿ぶち
こうこひせものつる詩こう、海にまき
弗こうに仕り。又所中の弱に記を
こてものみたよりよあれど、部玉とよ弗
いつくよ部道こうつるあし、八百舎八姫三人雪
一ゆよりつくさこうたのびり　花
宮士こう初まれをこ求めゆのすい、上着
碧蔵　下着　茅部

一こうこのもこひ　杖こう始れこゆふ、まあ
杖こうちこれこう　一こうちつけのつれれ
こうあこうこうこい、四石のこうこのまこうる地
一こうこ杖　始杖こうこのこうこのこうこ
こうこ、はこ、はこ、あけも、みこうも、仕こ
こうて、張原のこうこけこ、このこうこ
一こうこ　地仕こ　一こうこの女房まこうこ
上の女房こ典侍　夢侍　書し、岩ハたり
こうりこハ右こう　一こうこの杖こ
こる花文選　馬　鼠杖こと書こ
の杖こうこ仕こ、こる鼠ハるれこ
の部こ、これこ、こ、こ、こ、こ、こ、こ
ここ、こ、こ、こ、こ杖こ、こ、こ、こ、こ
杖こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ
こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ
こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ

一[illegible]人の[illegible]節　世間あだ人[illegible]
[illegible]人の[illegible]河ゆ[illegible]
[illegible]一部[illegible]人の[illegible]
のくるり　一[illegible]のさしづる[illegible]
[illegible]おれば[illegible]流[illegible]
[illegible]一[illegible]のむ[illegible]
[illegible]代の[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

一うぐのはーの〳〵
ノ名ぶし 箱作し 一うちよまうりめく
のさわりをまりじて 黄ぐるの八門の
ひとまりじて 流の門より 浦氏の門
立ひ門 御殿をとしてこづく〳〵
一うすまん うすぐ 一門ちりぐやー
あひ中る 誕生の門ハ父門 ちりぐ
やーうしの御名 一うしの家のいろく
けぐやうて 河器は 平信 六信 組織

一うちうちのうしろに 入るのの門ハ
さはるよりて けぐのうしろに 沿りる 色
一うちまりさぐー 来をまく八今も
まぐまりよすし 一御殿ぐるの 山の長所
のくをとうくに 拍のみんりり 巻
うりり 居しりて 義兵をいの 平信
義兵をや 居のる 邸一うりりびみ
まりるいぶ もあをうて つれうりし
うりの立てさ もりる 見うぐ 天の
見ぐよあ 後より 通一うすぐ 乞 平れ
乞 主君父母 服一年 一うりりよハゆうえ
ぐんハりの 中の 心よ 家もりりりり
一うりりりー 四法の のは むと 三家よゆ
つりあらーハ 二重 うハ 古家 流し
一うりりと 姉妹の 日 一 新すしと 主すぐい
いりくし

一うりりて 一家 中 二

後引 まりの名作・草紙に掛詞 ※ 曲ハ多ノ曲

一 [illegible]のり 手ハ [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一

正月のころよりすると、三月迄、近所
世話、三月も過ぎ、世話のいろ月、
だんだん、

一のぐりてのぞあぐりて
のぞくも同じ、一のぐりう、
いろ、長と同じく、如ようなんあるし
一のぐりいろ、のぐりいろ、いろの
のすれ、れくくぬくらいれ、
をあくくまとあられそ、老よ
一のりらめくりあく、春らくくる、
礼記よりくれり、貴賜らりて賜ら
くのたる置方いく、還答行りば
時、多貴たる方くまく兼ら
一のくくけて、川所、事部
一のりあ、勝負の色あくくのり
そくくあべくれどいい女二家れいるを
のあく、蒲焼より、一のくを
一のりあ、養のくくり
そくくより、ぬ、ぬ、ぬ、
一のり、ぬ、ぬ、ぬ、
くくく、猛くせくくん、一のくあ、

一くくくくあくあ貢、内義寮、綱度、
義母とい、御室とあ、おくあ、
諸国より多あ、
一くくあ、退き座のく、額、河、額堂
一くくあけれくくくあ、
々也、河省い世ひ、
あく年、本貢く、鉸、叙、
一くくのくく、禁中いひ、用よくれく
月をひん、ずるよ、母ふあくちの武省
の月いくよくくひ、くくのく、
一くくのあや、訳、母とくくるまれ

バ[illegible]ブ。花園のおゝとゝ六条院乃
太ゞ天皇のそゝ[illegible]をえ[illegible]ることゝ
ゝゞれゝまゝ[illegible]ゝゝ。すゝの[illegible]ゝれ
[illegible]るし。おゝやけのゝゝゝめゝゝ。[illegible]開
白の天子と。補佐して[illegible]書し。源氏元
そつ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
のゝゝゝあゝゝゝ。そのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一ゝゝゝ。さ　[illegible]書し。ゞ張する人と[illegible]
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
式ゝ腐[illegible]ゝて。後　一ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

くちもとにあてたる布とする

一くるつまて（功）（ミくしけ）一くるくるめて布とする

一くるくるもの（布子ノ類）の色しろけをとるきは

ほそきをもてくい畳ドの色しろけをとるきは

いとまさりたるの心し一くるめいくるくるしく

くるくるくるく

[illegible]の例を用ふる。[illegible]。行平・月夜・今宵の事とりて事をせる
一くるやくるくるもうて。三養の行法。牛とりづて輕と
一車ともうるもうるもうるし
一[illegible]よくて[illegible]ぐりのくるみの名
柿名　中名　香垂名　うちみだる
名のみてこのようてハ。髮とけづりはる
ぐ伝れバ。部のれとをる　花
一くるもうるもうるもうるもうるくやはるゆとけ人
菓子の新[illegible]まとをるくる。偽て。りて
るくるくるて。もの役と送りもて。はよ
ゆくせるる時。もを送るくるくるこのまて。初の
末下とせあげるて。偽あられて長曲
るる。行とる。一番一[illegible]のうるる。[illegible]
の伝よある事ゆ。[illegible]
又ぶ三信の中の人うるぐ

一信くくくのるる[illegible]のめけあるる人　金文明
強曰。強指而出南成伝正文。若[illegible]
功成名遂而身退者天之道
一くくるる　若冊く。北冊上云。文ノ新[illegible]
一くるるるくくく

推古天皇十四年。始毎寺四月八日設
供食斯 日本記

十くもとしのかのとのやみ
くもるのうのうのう

[illegible]

一[illegible]服者ハ侍所と[illegible]都

とかけてかりまする 信長の名ハ日

月の名よりもわるくず[illegible]

[illegible]苦 [illegible]堺良[illegible]記 [illegible]士や

一[illegible]れをあてい[illegible]女のなけ[illegible]

めれバ名をけ[illegible]

[illegible]

一[illegible]

王宮 仙人[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

一やまさくら　なるつ　ゆ　ゆ　ゆ

秋山の木末をそそ
りみちとびそりてそらのふ 曙く
一やくとんみをかぶ
ふくそらづたひ
みくさをしし
一やまもりの秋の
のめりいるるこ
一やくるくるのそらとぶ
まつたくさぐれ 松陰 若侍ハ同社
河妻 若侍ハ八幡同社 若侍ハ 鶯ノ
神切皇れし
面白 裏青 一柳のとり地 柳ハ
すくるくるまいあるく花くさ乃
わそうしくるくるをやくるくるし
一やまもりを 一やまもりこ 和琴
のみ句ハ柳し されば言ひて ハ和琴乃
こ立つるや みそていろれ 和琴ハ
伝六千ぢわり 一やまぐるみぐるして
大納言 下ル 弓矢と 賀すく

一やくるくるくる

一柳とけづりてつちうちん河陽郡と
白きをとにとく略乃草のもと青き
をとよりをくこう一角の古宿如
院の門に書て交貞傑記主と口
をくそれを桃堂の書にをづくき
後記
一山堂の名をつる
皆者のみ古翁の名よりて
一山ぐつのまぐきとんをつる名霊
まぐさ四あるとりまれ人ぐ
さし孝の心動をつちうちんて
一やうちせの 嘶くとやうんて
一山ぐつのんち山ぐ山の地をぐぐめ通
一やうちそばやそれぐ一山風ようすく 名を
堂者の四あつて拙者を一山ぐつの ちをく
庭をし後ぐくのをつるぐぐあつあ
をり社名をとりを一山郡のをつく深

をつをぐ やつをつ
んんぐれをつをぐ
あひをあり あよをわようをん
よのんをや
一やぶ 四ぐ 鞍
をもは実ぐをつて
一やうを 皆やぐをきを面と切ん
ずい一あもあ ぐをんんとの心 我生
のをきを手を 宰 ドリキニ 生たをを手を
一やりのをを 一やぐりを 実の年の
ををとをひをり 一やぶをを 戒を
彼手も切れどもと 老の切
一やりをのをる 宿あい秋の法を出
つて あを年の三月よ あ和にをりあ
堂ハをのまぐ 法を河あり 中 法あ
基の 中 堂に 中 法へさい
陽をのあり 不書をを

○ま

一まだゆき　ぶ毛の生る迄。新よむ

一まうけの人　儲君　一まうけのぎみ

一まつはさをみ　繽紛　一まつのがらをみ

一まさかき　榊　日本記　注釈抄

一まさかきの　さかきのきと同じ

一まで　まづ。まうで。まうづ。皆

和　まうもうす　一まどうまどひ

一又いくせのていたらの表の屏へ

ひつくせをなをしたりさくよゆるを

ゆるといひて無ものを一まげうる　曲る

うるべ　一まくしたしまく

ら泡　ぬれたるすがみのふくし

一まめくちち　家　一まぐ　中略なるよ

ぶ氏　中略　はあ　ぶ

を出つくるくるくて。くつり

一まれなるいわのうちひさぐ　笹蓋の宮

悩　なやとうけのみとろ

一まを　まをとをのむ。真帆　真帆よれ

泊　とまりいまの帆　とまりとる

一まんを　真名　一まくさくの

一まうと　真人　わがめてうの

一まらと　真人　一まろ　親　ものを

一まくまぐ　極じく　一まぐさて　燈の

なたにくめくいく人の目たくさいすり

一まりつく　陰陽師　のすりつぎし

一まくしのうき　東　八月九月　長夜　泉文集

一まず　まひづ　厭　体　加　ものカ

一まゆのつり打てつり　白ひやうの神

一まとやもの　なすむてふ浦　ものの

うのものひしまし　ふらふらふ

まぶ　まのくまぶ　ものくまをうんよのて

一まひ人まふぞうしと一まうぞくくぞくふ
ぶ膳あるうてくぞふ一松乃宮のゝあてう
貧れる彰徹寒しとそう紀宮すも凋
ぞふれの性のあくくあるゝ一まん系けつ・藻
々塊じて百のの四朝を見し・まぞれを
新ゝ入ゝて・百ゝめるぶとつくさぶゝ
一まうぞゆさくくるゝ・ゆゝるいのゝぐ・けゝ三い毋
ゝるゝ系・沙毋ゆゝるいてあれば・三月の服
と・一廉ゆゝて・淫服の後も・ゝぞくゝ
うすゝゝ系をゝゝのゝ・まぞゆさくを
とい紀ぶりゝゝゝ・拝系・梅・梅・ぞ・れ
あるゝねとゝて一まうゝゝまうぶう
なくめのゝちゝぞくゝるゝおゝへゝゝ
一まうゝの紀　無ゝとゝいてゝいかゝ系乃
まうゝのゝ一まうゝゝいゝぞ
ひをするとゝゝ一まくくゝをゝぞくゝ

迷ふゝ湾・歌祝禱　白系天
一まうてゝまうゝゝまうめぞくゝなゝしける・
人ぞのあゝひゝゝゝゝぞすゝをゝて・
系門いまうて・ゝのゝ・ゝ系ゝ多ゝて
もあゝゝゝゝとし一まうゝゝてゝゝを
ゝゝゝゝ紀ゝゝゝゝゝ瞬めぞゝる
ゝゝ摩ゝ系那紀暑一まうゝゝるゝゝて
いぞゝ巣のゝ一のゝ・ゝのゝぞゝゝゝにゝまゝて
れゝるゝゝゝ
一まうゝゝ日記
一まうゝゝゝゝゝゝゝゝゝ監ゝ紀し
一まうゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

百寿丸を呼ぶし、踏みの音人のうちさ
ゆよいつすうをとぶ、源氏のあのはずしひ
にのあつてしぶ〳〵二百とまはり花
一又しらいなて 通いもの百匹の百匹
まんなのすゝこゝろ りよ 花まんなの
すゝこゝろいゝて、すゝて、まに半
こゝをそれい彩もこゝおさゝをこの
ゝに半すぐさぐ、さぐけるゝ〳〵ぶ
すぐゝに出ぐさんし 一まぐゝねさゝし
実物ともまるよしゝし 附物曲の書ぬ
刺ゝ半上、半二ゝぐゝ物もあり難ゆ
えゝ、ゝてまも 一かまぬまぐ
山雀し 吸物ゝ物 一まりれゝけるふ
みも細ゝ一あゝしの巻の上のて
一まゝいゝと 柳生ゝゝ 沖縄有千
鶏早ゝ一千 一まりつゝく源ゝよ

山鳥のうんうまいぬ紙の中後
しのゆゝゝうゝのゝ 一まりぐるゝゝの 仁和寺の本ゝる犬百し
摩訶毗盧遮那ゝ 一まりゝ 一つゝゝ大ゝをゝし
ゝゝゝ 行人の眼ぎ
一行ゝ行ゝ山 弟のゝるあるゝ
一行ゝ行のあゝ 夜のゝゝゝゝ
ゝゝゝ ゝゝゝゝ
一まゝとゝつ市 映 銭灯 宵 乳
蕭ゝ晴雨 打 宮市 仏人 王 食 松
一行のゝとゝ
不飢 百七十余年 ゝゝ
一ゝゝゝゝゝゝ 金ゝゝゝ

一まくでこ　こくれとしまつけそ
ゆりとりとりとりとり
一まくぢり　あの枝よりこの花と選び
みて　かづらと枝よつめり　叔極
聖点布刷　一まくふりぬ　かぬい
みれぬし　叔極よそくこり　絡こそ　ゆ　結
にそくり　一まくこそけりこれ
結宿　とりて　芸術　とりて　花の中ぢの
けれ　かれば　花の　おぢとし
一まくる　四項　法師し
一まあ　人　まぐし　一まあ　さた　遊
一まぐ　麦　狂言　一まくちこ　ちこ　夜
一まくぢり　そくさぐり　いづれとして　恋
一けらこの　夜衣　化粧　の三位の
さくる女　ぬぢ　夜衣　とこに　舎て

まるにとりてい　柄　夜　夜衣　ぬれ　夜
一けふこ　ぬぢこいの　りも　夜　夜
ぬる　ぬれ　ぬ　とり　一けちて　ぬ　ぬ
ぬぢ　ぬれ　ぬ　ぬ　一けふ　ぬ　ぬ
一そ　けぢ　ぢれ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬそて　ぬ　ぬ　ぬ　一けぢ　ぬ　ぬ　ぬ
一けぢめ　河　撥　撥　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
けぬそ　ぬ　ぬ　ぬ　河　不　習　不　ぬ
一けらそ　ぬ　ぬ　一けら　ぬ　ぬ
一けそ　ぬ　ぬ　一けちぬ　ぬ　ぬ
一けそ　ぬ　ぬ　一けいぬ　ぬ　ぬ
ぬそれる　ぬ　一けいぬ　ぬ　ぬ
一けぬそ　ぬ　ぬ　一けそ　ぬ　ぬ
一けそれぬる　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
一けそ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
多ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

一けうあるものの子ども、箱林久人、出
家するし。韻の字はよい切韻として、韻字を
もつて韻とするところ、みな、もこの字に
丸韻ところて、元の五文字の中、平声字
をもて、韻とするものもあり。又、仮韻もあり。
作者の心まかせにしてもあり
一源氏のうちつぎ、兵部の卿宮の中将
の娘、弟子の姫君、源氏の姓をたまはり
ざれども、帝王家の子孫なるべき源氏
なり。源氏中将は一けうの化
粧者とよくつかへ、一けうを花やか
なる所作、一けうを所作はなれ
角にいちざるおもかるる心ばせ
一けうを、なやんし、一けうの
詠い、有名文章、詩歌、詩恵連、詩三百

一けうあるものの子ども、みちのくの源氏は
なほとけ、いつしかとがびたる心
一けうをみなかたちひと、験方し、好なる
ぐんぜんたる同、一けうをもつて、根
どものもしいづるを、くちをしくも
一けうをもつぐ、あるよ、くちをしくも
一けうざわう、清方、一源氏のおもかげ
は源氏の部をもち、結源氏の姫君と云ふ
一けうく、絵をの業、一けうの人なり、
一けうとさくもぐさ、絵をさくもぐさ
ちぶ如、こそ、絵をの業を、一けうの弟子
物語し、弟子、宮遠ハ、世間、後
まで、又、花行をもちうる自也
とおもひて、天のいあるを、あきらかなる自也
一けうちをなるなげ、物語あり、なるを、
一けうをもつて、せうをとよのまし

宮後醍醐天皇遺勅に爵文侍しとも
同じし。武況ニ弦文侍し。チンムシヤウ
云ぐぐ。足ハ方の重衣とも尊ハ新
の堅文うゑとりちのうし。大略同じ。
しばしの花ゝい。時分花の見とも。夜の重衣。
装束よりなる方し。
多。芋堀の手い。男の女とも女ものの
堀を結ていめるとも。女のおやまつぐるくみき
けるとも。とゝめでつげつんこうぐる
と。年のおゐゝしのつゝし。それをけやけし
ゝいつるし。そゞつけるけ。
年へよけるけ。ゆゝしの物言
めるし。花しゐ物沉たるとりゝ
ゐてけるまゝ多シ。足も共りゝ
物べゝ。けやけう。なゝ
けのうちつゝ

源氏のおつゝ。
のゐとゞめることゝ。
けゝしのりさち　編
ゝ。夕雪此景の
ゝあゝ。
めて。我のゝやうゝ
一源中納言　竜中納言のゝ。竹川の
もゝ。文雅ゞゝ。
ゝ。竹取物語。
同じけゝとゝゝ。
混乱すべゝ。
ゝゝ。
月雪のみの字に助之　竹川
助言也　暁　月清のゝ。
ゝゝゝ。

よりのゝ八春日神
ゝ。惟喜
編ニノ喜雲八解
ゝ。
ゝ。
ゝ。

[illegible]

一けうくい 織し 一けしやくこと 諸摩

[illegible]

一けうめと 帝有 一けさう 化告

一けうや〜 授昇 地をとくるとも

うちあげよ地を作るとも

一ふ

一ふうめ 皇子七歳まで いろれ 相士

[illegible] 花山院著語 或云

[illegible] 貞欲 [illegible]

多〜

一年の年 [illegible]

一ふうき 一ふちつば 蕃舎

一ふうも [illegible] 一二のみちうふ

貪婪のテウ 富貴 女景 [illegible]

早輕其人史 貪婪 女 [illegible] 文集

一ふすぐる 倦まうる日 一ふびや 用病し 又 [illegible]

一ふいは 不ふと 一ふうるいのあ

[illegible] 一ふうう 不用し

一ふあのあのうちき 蒙花 まびと

まてそもりを二蔓 二蔓 [illegible]

ふあのもあ [illegible] 同まし

一ふびんする [illegible] 不侵し

一ふうろう 説文云 食の毒 [illegible]

一ふいいいろう 河花 [illegible]

[illegible] 服 角

一ふで 用 一ふりと [illegible]

一ふ同のきハ [illegible]

[illegible]

一ふび 善薩 [illegible]

如 普賢 善薩 [illegible] 大自然 鬼 紅

蓮 [illegible] 説菩薩 一ふうきのうぎわ

てんとう 獸の [illegible] [illegible]

省もまわるよろこぶるあるとしつり。紀家集ニ
きてんとゝ熟のかしし。船氣とゝり撥ゝ
よゝ。ゝゝのゝいぎ。ゝぬゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝ

一文集　白氏天の詩賦をあつめたるし。
七十二巻有。[illegible]
一ふんのつるゝ　花　勅撰名書目云
稼唯仰云中千変良くく万の礼
書司。則飯　杉女　和琴　置くに業
今案。地論の説によハ必ずしも無あり。書目
ハ女房の名なし。和琴をつくさどるべし。
和琴ともやゞて文のつくさとなし。
めハ中多のはしにつくひくろ和琴し
一ふるさとにくくよの　琴ともさえつる
ところ。ゆえの四ろそて琴をひきあぐ
に。況もきワくあしじとうこをつり
一ふせんくう　善堅　仏天のつげつゝ
く　奏しくるし　一ふてつけゞれく大
やうなとし　唯力とのつるさもし
一ふえのるにもあるこゝ　向ふ　期　思　鶴

賊序に曰。隣人有吹笛者。發生戸寒
[illegible]　想　曩昔　遊　[illegible]　文選
一ふるの人も　[illegible]　急ぶ回ふ[illegible]
とゝ[illegible]
一ふくいきるるおのさやめるあがらとし
一ふびのりそなるが　女れぬ裏米もうふね
一ふれでし　解し　保ふ　つゞき　まのて
一ふてつけきもぎ　一ふさいにして
玉ハ[illegible]の　[illegible]　[illegible]
のまるし　いれまて　[illegible]
一ふんせきすも　[illegible]
然ハおやくうよ。文　[illegible]
しまもまあ　[illegible]
あ礼とこハ　[illegible]
他人ハれるよ　准じて　礼とこ
今のるもあ礼とこ　[illegible]

儒者の数をつし　一ふるまひ　物やけ
都主　太皮　宮下布
のし。灌仏の布袋を内裏にては
ゝと中ばゝ紙よめるし
一ふくろ　ふくろ　あさくる　あさくる
清英　六位　袍　よそ
一宮衣　ものやつれの　服衣
一ふくちのそのよ　奥へよ。
ゝ　ゝ　所　れ位　ゝ　ゝ
一ふ　ふ　ゝ　ゝ　ゝ
諸し。河海　琴　諸
一元じ　物
待者の
一ふ　ゝ　廿三
源氏　ゝ　ゝ　ゝ　廿三
絶止

ゝ　ゝ　花　琴
ゝ　ゝ　ゝ
一ふ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
一三日　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
一ふ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　唐
一ふ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
一ふ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

いづくにか山の水出づ。男のいづくにて
不付しらんと　一ふうう　武蔵・不遠
しるべかりけり　一ふうう　川の　江戸の内
そこにだに紙しりのなかりしもとこそ
一ふうう　たうげみ　白し
一ふうう　おのづから　おもし　一ふうう　不幸

○こ

一ふうう　みちくさ　いとあしくちきゆるはなし
一ふうう　山　後深草　ひなのあるよ
あらしれば　考の家　よらうさし
一ふうう　心家　一ふうう　心様
一ふうう　きりのつづく
一ふうう　あだなる　あだ侍べとあるは法師なるべし
一ふうう　言稚　一ふうう　ことばの人の
一ふうう　花　獄負　今の蕃とは詞

法師　まらうとのつくさとらうの玄侍
蕃は客し　侍臣と云　りの　肴百姓国
より来る　をゆつる　蕃客と同し
山嶺よつくさとらし　又法師は肢の
茎と思ふ　法のうくひ声をいぶすまし
あるよ　法師は声と侍らし　国
人来る　の所は通書　とうとうあて
毒国のつぎをつくるゆし　七条朱
花よりとし　式は今の四づくとうの
名とうし
一ふうう　ようす　ようす
かあらう　河し
あらあの　あの書し
一ふうう　まつりうちうる　あてをうし
ひらうちも　独言　一ふうう　言換し
一ふうう　に　対ふるまものゆし　又物中
ひつんし　花しらう　歌あるゆし

一こめきて　臣の子し大やうの御し
一四づきあり四つあり一こゝゝしいとけう
よつぎとつらせたる一ごろ　橋逢　御解
良　女の熱名し　一こゝ人のいとんやは
いろこゝゝたるめ人のいとんやは
中ねの法氏のえをいひあふしごろう
一ゝゝゝいゝづゝしゝおさて　京ゝし
一こゝやこゝわやとゝゝ一こゝゝゝゝゝゝゝ
一こゝのねも　紙つゝゝ　ゝゝゝゝ
月ゝごめめつゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
高氏紀ふゝもめゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一こゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝゝゝゝれを　一ごゝねらしごう
やゝゝくねちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一九日ゝゝん　言語高ゝゝ　天皇崩ゝ
出帝ゝゝゝ　門弁　外弁　等あり
文人　博士をめゝゝ　明をもしめて
名儒のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ごゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一　海　海のゝ　蟹
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
志　ゝゝ　造　周　一ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
女房の　衣　米　月　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

一これつぶあづり　[illegible]

一こどあり　加賀人童　[illegible]

一ごぼうぐうたあ　[illegible]

[illegible]

一こちう　河内

一うらへ　[illegible]

一こうさ　[illegible]

[illegible]

一このうち　[illegible]

くべうす　[illegible]

きうぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

妻と侍従の説話よりおこる

一ゝゝじ知やうゝゝ[illegible]ゝゝ[illegible]ゝゝ[illegible]

其年の冬より病おこりて、
秋のなかば、春日を擇て、文を禊のすき、
則ち第四の郡に入りぬ。されど二
度の禊にとりかさねて中の酉の日なれば、
社へ参りて、参りすぐるほどに、新年の
正禊は少年日うれと、俗ていはく略
一ささあとをとびのくるまもあるの
まわるなり

一さるすべりの花　三秋赤幟之候也
釋明之天部儲依之情出声切
之恨遺遂部はこれ

一めんどうのこずかう
議摩中央壇中供法・降三世・摩尊利・
大威怒・金剛夜叉・中央不動
一めんどうの日法華経一こまもり　狗服記
細身記　細身記　ぬきで

一すがの
ぬきでのごく花　鈴
ぬきでのうりもの
といふし

一こまもりて
日本記　恩
一こうずまうりあり
一ぬきでのこと　花
ぬきでの花のうりもの
ぬきでのうりもの
ぬきでのうりもの
ぬきでの

[illegible]

一この国より[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

天暦三年[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一この[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

讃岐守[illegible]

[illegible]

昌泰二年二月除目[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花島より奉、樓高に上りて、樓蹟
ハ、鹿ノ山、はるかなる、清涼寺
東の方、法橋光人、春然門
堂建立、一こうの
中なる、新れを羽のもとにて、
宮、あれハ、ゆきづまて、
荒屋、菊の枝、くもはし、さらぬ
御ハ、人ごろも、でしろ、
一を、香づくの名、
花、今、業、物語
中、東、
中に、番、府、
そ、
羽林、
御、の近来、
とつ、

あを用る加陪従、
し、陪従ハ、和琴、
一、
一、
三条院の
ける、
ありけれ、
して、
一、
一、
に、
ハ、
し、
用、
一、
一、

大淀云
史記 明君知臣明文
清のまつ、
源氏
陪従ハ、

面すりこしきまで。おろちぶいまつのあ
ぢぶまの毒さ方ぶまちくしくぎみを
よよ筈。あくあいさしあるよ必ちさすし
一ふくくまるまつものんくまちにんとさあ
あつ井。紅葉の面白きさもいんぜらし
一まちぐそくさる物あつのるまるさそ
一この月いさのとてるり三月八春の季也
除し。四季共除月景信に詠ぶるとのもし
一胡地の草くとばかくくすくくつ一本
胡の地 梁帝之井。不得見 句氏文集 胡地書
子虛 弄猾 後漢攻胡之時漢人止
胡国不得帰 漢軍敗之故也 後漢
後漢攻胡之時止胡之人数国侵也
共時 新胡書 而漢不入侵人 剥関
之号 歌国 住人也 仍為国之使之云
叶物 物 略

一ごくて帰いぶ
清帰のつくさし。清ぶまに帰いまされ
一こまつる 若女 方ふ 花て二度ぶ逆
一このそぐちいるぶさ人い中しに大寛
人い舞よ女ぶの四一こいけるる多い時
ぶいい清の自しいるる編とい和ぶ
のいるよ弱さあつんとこ家文にんぶ
しんあくんのやまいこくぶいのいとい
りんくさる紅葉のりくるるいるる
ぎいまやくいるいるさあのきあ
こくぶさ 寿司 昼に 後ぶし
一こくまちけるいる事歌一こくしいるいに
くるまくく 愛信の器皆袋納茎ぶし
一こくひの山よいくくのくくれ 花今葉
乳子のくくれとくるいに昔より学ぶと
くさくよくつくくりれまりれまの要人ぶ
れぶ時ともくてくるくまのまくくいこ

本文ヨリ不及　上の方ちがひ注に見
えたれどもこれはまことにこれもし
一こまの初段　板の方にあるにても物紙の方に
一このこあつめ紙あつめ　一ことついさらく　空
もつきかとを彫しじ　ちつきめづ　ちつひ
いとかるくとを本さあり　元名三段あり
めつり　さしひ　傳兄　元悪　うてさ事
一こさう　一　くべり　赤動　一　こうちさひさ　初と
一　けうをりかとし　ぬつし
一ぢ前のついちんざいのえん　ま語り
中あのトぎあり　一　うゆい　ものあり
きて　繋とりゆ　一　こらうのけ　左背
のけし　典行し　二人　きあ人も　内偏
のこと　ちム人　こと　一　こうぢいうきぬ八
うのかそ　ちり　紙物の唐　物の細ぢ
女のさうそいもうきめうどし

一こと　ものうそ　ことの裏米とい　紙
けぢつけそし　一　こんありて　用ぢ
ゆぢくんあるよ　ぢよて　吹ちむぢ
ぢとし　そこ　落物の曲の四
一こまのこれいぢこうやくようこう
紙ぢうこし　ぢやうたるし
一　ぢ事　澤軍　安　ぢて　明ぢ　蓮
一　ぢやまこ　ぢど　紅ぢるし
一　ぢ事つこの使　ぢ義祭　吉日　書使
ぢ事　ぢ用うこい　ぢ　ぢと　ぢうぢ　ぢ
一　この秋の行幸　嘆　吉　ぢと　春
ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
ぢのうこの十月　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
一　ぢの　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
一　こまのうこ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ

踏い奉のうてよ舞くの
右の奉いる舞く　一こひうぶるへ成くミ
廿三の舞人としてかくせべ伝とそぬうく
とちくとし　一この国よつき伝ろ
しめ　花　允恭天皇も文武天皇も弾琴
めうう　琴うゆのうくけうちるまうう
一ごうれきくへきくるいものさくへうるを
河一三　撥年　二三　竹笛　三三　水中琴
四三　茶臼殿　五三　鷹鳴河　そうく
一五六のうくを　今の琴ごう琴内とうり
河百秋手　五六　鞨　半鞨　鞨ようつるが
あよあ六の　破等　とうくあ六の破六
れの破そうんしうう
一こうく　世七ごいうりめ　は第上のやくの
ものくよ　源氏よ　ちつぐりせいうう
そうんめ　ひうこいくいナ年とうりとうえ
うり

一心ゆうひるく　ゆうひものくうづう　比心ミ
一心めうくうくうくうるくい　若経云山取大
芋ヤ　得福　大敗　要大海福　至医要　道編
一めういいうり　物を　倫理　邦編　五語
飲酒く
一五午うのち　論語
平ガうれいめ　四千四百うの四平ものう
一この　この　木のうよをとう
くうり　ものあうきうぐさ　服衣とのみよ
きくうをちうきうよのめうり　麻の衣と
ちを　衣く
一こうとうくいうくの
枝ごうのくいめけうくうづくうくの枝とう
うくく　枝ようわくとく　ちうの弟とは
柏木　うて　一この　ものうもう
つうくん　源氏　文のうれいて　柏木の
しうくひいうくん過一れてのとうくう後
柏木のうくれうてうり　源氏　琴九

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一声よつてうつる時の[illegible]

と梢本のなるところ一こえいとゝ[illegible]

やとて藤ぼいおもしろきとゝ[illegible]

夕ぐれそのゝもとに一こえまんまと[illegible]

[illegible]

[illegible]

月の夕　三五夜の[illegible]

故人の

一こゝろもつて　こゝろ[illegible]

一こゝろあゝこめて

中そのゝりてのはのゝ

一[illegible]

のゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一こゝろ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一ちのさうしん　[illegible]と[illegible]と[illegible]と

一えんまげて　えんまげて　曲て　さしもさぶ　女房
そのまを　そう
そう　又　紫の　袍　一えひのうへげぐうと
とて　河　衣被香　一えひそあ　蒲萄を
はぶたし　第六　里　一えいうどーのうへ
葉のてて　まあるう　徐曲のうめで　青蓮院
の　処　泳　の　安　一えいすさ　のう
徐八　冠　のし　着　帝の人　表　冠　絵
一えしのうへしの　用　白　天　ぐ　一　選
して　三月　曽　よ　東　清　向　て　元
微　そ　ま　に　付　浮　の　し　酔　越
湯　腹　春　盃　裏　吟　苦　文　顔　喰　物　前
一近　表　の　ぐ　ら　川　つ　く　る　手　花
あ　ま　く　ま　の　ず　の　く　ば　る　そ　ぞ　ん
う　の　ま　う　れ　ひ　て　よ　う　し　て　ば　れ　ま
四　名　人　の　第　八　逸　氏　の　門　う　ば　う

て　三代　よ　あ　ま　う　と　安　れ　あ　う　ば　や　す　う　ま
四　え　の　ま　の　第　の　上　す　う　う　と　。　人　う　の
く　う　ま　う　ま　し　ま　ん　こ　う　う　と　い　延　ま　に　門　し
一　え　び　ば　ー　て　蒲　萄　等　く　し　い　ま　う　ば
の　ま　し　。　う　て　る　け　め　て　り　な　れ　べ　え　び　て
い　ま　ば　ー　よ　あ　わ　り　ま　ま　の　り　あ　り　。　人　後　の
数　俗　。　ば　ー　ま　い　う　え　あ　よ　な　ま　う　し
一　え　う　う　知　一　朱　絵　の　す　け　く　番　サ
中　の　絵　う　を　ま　あ　し　あ　て　神　第　二　求　め　を
ま　ま　て　し　一　え　う　よ　て　絵　し　一　う　ま　し　ば　う　え　ま　ぎ
一　え　う　よ　て　絵　し　一　え　う　う　え　ま　し　ば　う　ま　ば　う　見
一　う　ち　う　よ　絵　ば　う　し　。

○て
一　て　ば　う　の　を　ば　ば　葷　の　す　絵　ま　う　し　。
河　葷　車　ハ　石　階　の　る　き　門　う　の　る　中　の
童　を　出　人　の　う　あ　し　中　う　の　葷　車　う　。

牛車ハ千の[illegible]
今案 温明殿ハ後涼殿ノ[illegible]
の門門の[illegible]
[illegible]東の宣陽門の中にあり。
後涼殿ハ西の陰明門の内にあり。
其の[illegible]
[illegible]
[illegible]

は天よりくだりてあり 乘天人の歌とそう
一天のまるく 天服し一天でんのごとくにて
天ふきりにきてくとうるし
一蟾多くハ八人 前のうけよ年出るを
あり。心祝りちる意の。則乘人うる
一てあはまして 童の乘るすべくも
一すらあらち 発ようさもと及六よう
うあらし
一あどべハまいの内春
家のうすすう 花あどべハ春に
うぐぶ。後の春上べちまの春べ
あして。千あぐまゆうされて。昇殿
するうまのべ。中にうる
うもて。後まくはまくは昇殿しる
あどの御はうあるうあるうあ
一てうく 調ふ一てうくはいあ

手擦。人よりれどと。言よ不出して。
手うくはいもむるをうて
一天人のあはんくゆるうや服を行ふ
の義うえくうしよものゆひうし
き八月十五夜は天よのうりし
一てんぐ 天狗とうはの服の名。本邪よ
用りあを。天蘆の彩よいう